

平成27年度 「中学生チャレンジテスト」における 大桐中学校の結果の分析について

大阪府による「中学生チャレンジテスト」について、平成28年1月13日（水）に、第1学年と第2学年を対象として、教科に関する調査と生徒アンケートを実施しました。

大阪府教育委員会では、保護者や地域の皆様に説明責任を果たすことが重要であると考え、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科も含め、総合的に生徒の学力向上をめざしています。学校の現状や取組の参考にしていただきたいと思います。

1 調査の目的

- ① 大阪府教育委員会が、府内における生徒の学力を把握・分析することにより、大阪の生徒の課題の改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ② 市町村教育委員会や学校が、府内全体の状況との関係において、生徒の課題改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、学力向上のためのPDCAサイクルを確立する。
- ③ 学校が、生徒の学力を把握し、生徒への教育指導の改善を図る。
- ④ 生徒一人ひとりが、自らの学習到達度を正しく理解することにより、自らの学力に目標を持ち、また、その向上への意欲を高める。
- ⑤ 大阪府教育委員会は、調査結果を活用し、大阪府公立高等学校入学者選抜における評定の公平性の担保に資する資料を作成し、市町村教育委員会及び学校に提供する。

2 調査の対象

- ・ 大阪府内の市町村立中学校、特別支援学校及び府立支援学校中等部の第1学年、第2学年
- ・ 大桐中学校では、第1学年169名、第2学年167名が実施

3 調査内容

- ① 第1学年で、国語、数学及び英語
第2学年で、国語、社会、数学、理科及び英語
- ② 生徒アンケート

平成27年度「チャレンジテスト」検証シート

学校名 **大阪市立大桐中学校**

【 第 1 学 年 】

生徒数(人) **169**

平均点 (点)

	国語	数学	英語
学校	60.6	47.8	59.8
大阪市	60.4	49.7	62.2
大阪府	61.0	51.0	63.5

平均無解答率 (%)

	国語	数学	英語
学校	7.3	6.8	4.4
大阪市	6.7	4.9	3.4
大阪府	6.3	5.0	3.5

結果の概要

国語については、大阪府・市平均とほぼ同じであった。しかし、数学と英語については、大阪府・市平均と比較し、1.9～3.7ポイント下回った。

無解答率については、大阪府・市平均と比較し、国語と英語については0.6～1.0ポイント、数学については、1.8～1.9ポイント高かった。

成果と今後取り組むべき課題

中学校に入学してから、落ち着いて授業に取り組むことができおり、一定の基礎学力は定着しているが、数学、英語については、大阪府・市平均を下回った。普段の宿題等の提出物においても、教科担当教員や担任などの声掛けで、ある程度は提出できている。今後は、自ら進んで学習に取り組めるよう課題の精選を行い、今まで以上に積極的な学習姿勢を促し、自学自習の定着化を図っていききたい。

【 第 2 学 年 】

生徒数(人) **167**

平均点 (点)

	国語	社会A	数学	理科B	英語
学校	48.1	52.6	45.9	46.0	51.4
大阪市	47.8	56.4	53.7	47.2	52.9
大阪府	49.2	56.5	54.7	47.6	54.8

平均無解答率 (%)

	国語	社会A	数学	理科B	英語
学校	10.8	5.2	8.5	4.8	3.3
大阪市	13.3	6.4	8.2	6.7	4.2
大阪府	12.4	6.5	8.0	7.2	4.1

結果の概要

国語については、大阪市平均を若干上回った。しかし、社会については、4ポイント近く、数学については、8ポイント程度、理科と英語については、1.2～3.4ポイント、大阪府・市平均と比較し、下回った。

無解答率については、数学以外の4教科については、大阪府・市平均と比較し、低かった。数学については、若干大阪府・市平均と比較し、高かった。

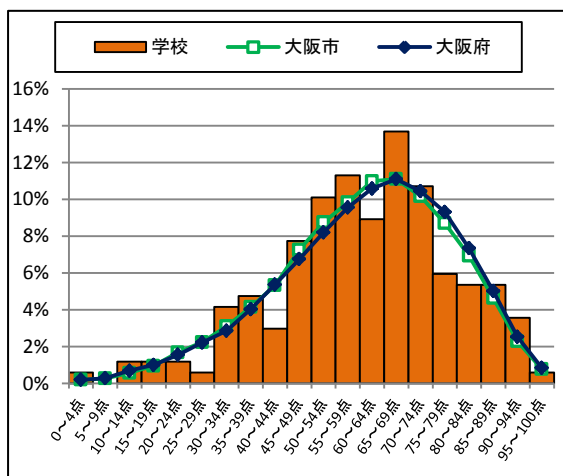
成果と今後取り組むべき課題

国語については、大阪市平均を上回ることができ、朝読書や効果的な課題提出などが成果につながったと考えられる。また普段の授業は、落ち着いて取り組めており、その姿勢が無解答率の低さにも表れている。しかし数学については、大阪市平均と比較し大きく下回った。今後は、基礎・基本の定着へ向けて指導内容の精選、繰り返し指導、効果的な課題を与えるなどして学力向上を図っていききたい。そのうえで、それぞれの進路へ向けて各自が目標をもち、自ら学ぶ姿勢をもてるように指導していききたい。

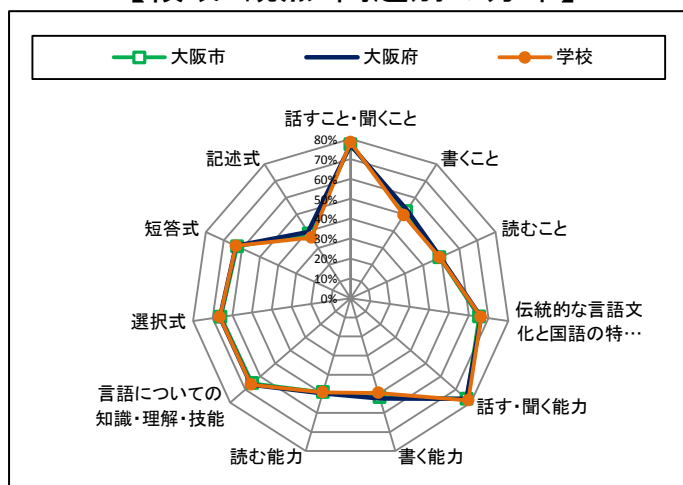
【第1学年 各教科の得点分布と領域・観点・問題形式別平均得点の分布】

【国語】

【得点分布】

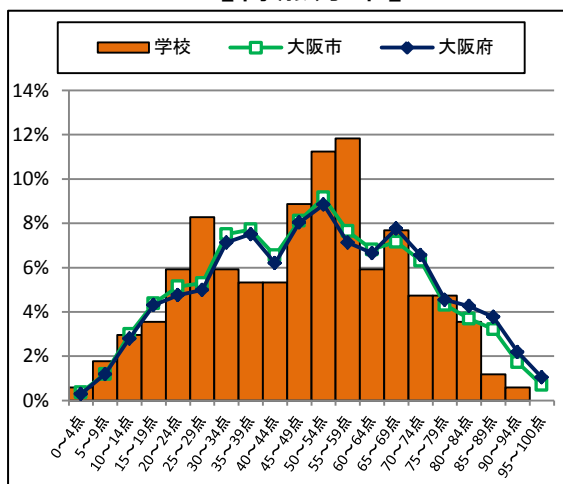


【領域・観点・問題別の分布】

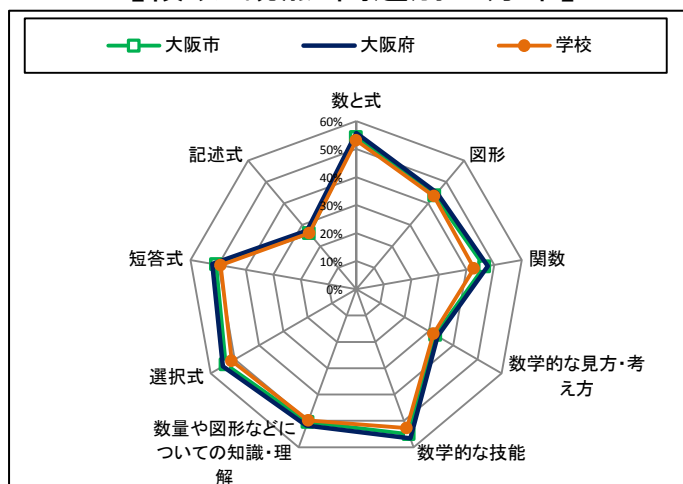


【数学】

【得点分布】

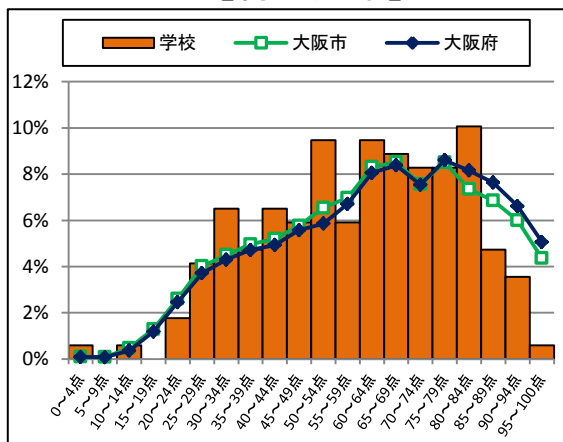


【領域・観点・問題別の分布】

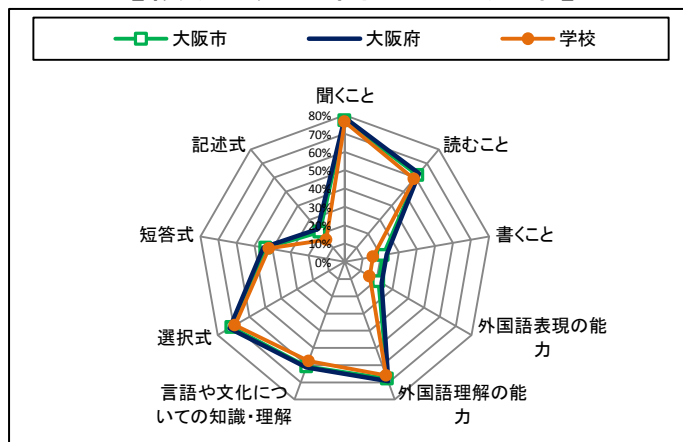


【英語】

【得点分布】



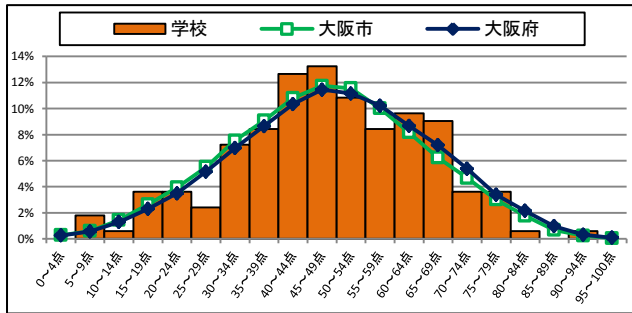
【領域・観点・問題別の分布】



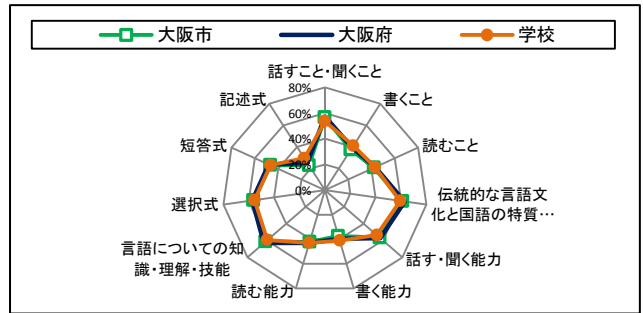
【第2学年 各教科の得点分布と領域・観点・問題形式別平均得点の分布】

【国語】

【得点分布】

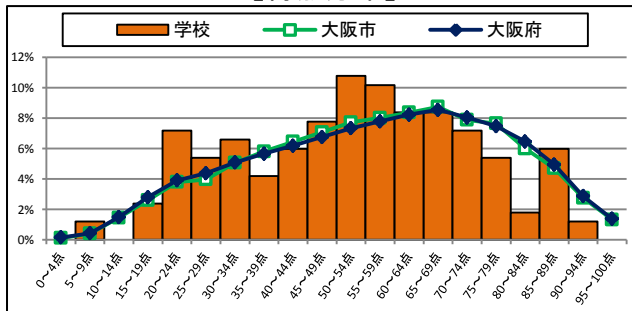


【領域・観点・問題別の分布】

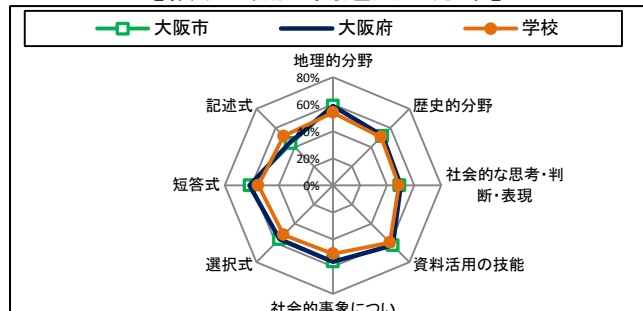


【社会A】

【得点分布】

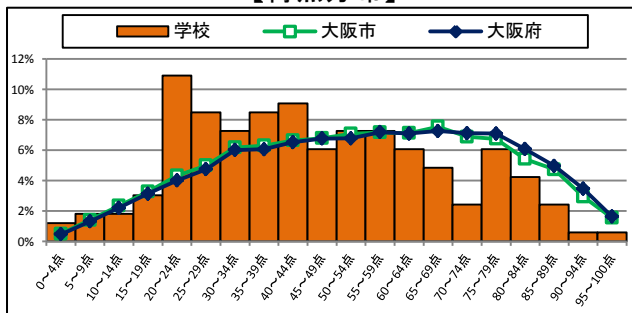


【領域・観点・問題別の分布】

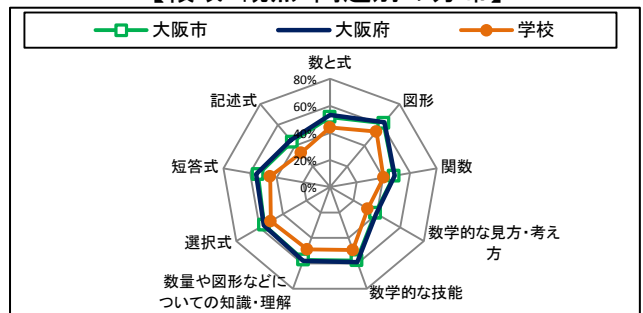


【数学】

【得点分布】

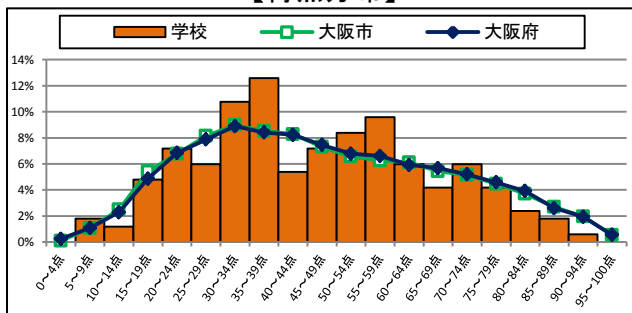


【領域・観点・問題別の分布】

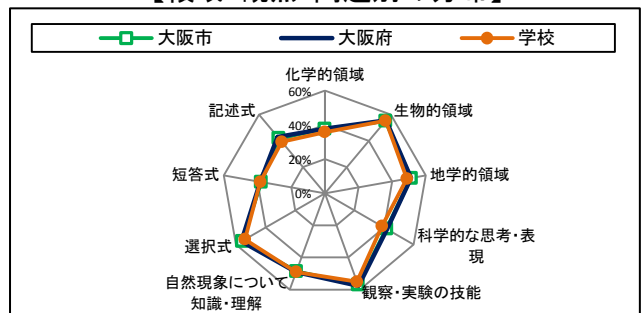


【理科B】

【得点分布】

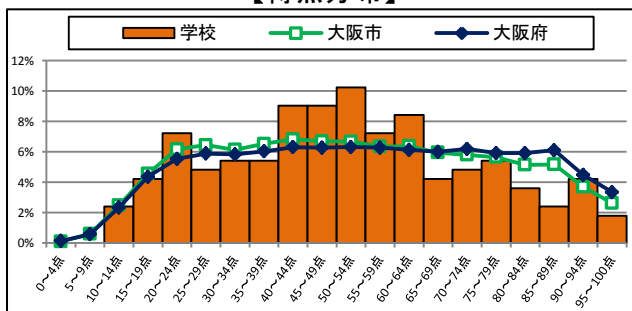


【領域・観点・問題別の分布】



【英語】

【得点分布】



【領域・観点・問題別の分布】

